

ドイツ語学科		教授	木村 佐千子	大学院の授業担当 有
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生に分かりやすい教授法の工夫	2003年4月～現在	ドイツ語学科の学生を主な対象とした「ドイツ語圏の音楽」、および外国語学部生を主な対象とした「外国語学部総合講座(西洋音楽史)」の授業を担当している。音楽を専門としない学生に音楽史の授業をするにあたり、なるべく専門用語を用いず分かりやすく説明し、映像資料・録音資料を多数活用して関心をもってもらうとともに、印象に残りやすい授業とするよう心がけている。	
2	授業レポートシステムの活用	2004年4月～現在	「授業レポートシステム」を活用し、「ドイツ語圏の音楽」、「外国語学部総合講座(西洋音楽史)」、「ことばと思想1(音楽分析入門)」の授業では毎回、学生に課題の答や授業に対する意見・感想を書いてもらっている。これにより、学生の理解度や、多くの学生が特に関心をもった点を確認し、以後の授業につなげている。学生から授業に対する意見・要望・質問等が記されたときには、次の回の授業冒頭に短くコメントしたり、コメントを記したレポート用紙を返却したりしている。	
3	「ドイツ語圏の音楽」の教材作成	2003年4月～現在	ドイツ語圏の音楽のみをとりあげる授業は、国内でも他にあまり例がないものと思われる。既存の教科書・書物に授業用として使えるものがないため、教材を作成し、毎年改良を加えている。	
4	「テキスト研究(芸術・文化)」の教材作成	2009年～現在	音楽関係のドイツ語講読の市販教科書が少ないため、2010年度はR.シューマン、2011年度はJ.S.バッハ、2014年度はヒンデミット、2015年度はモーツァルト、2016年度はベートーヴェン、2017年度はメンデルスゾーン、2018年度はシューベルトの生涯や創作活動に関する教材を作成・配布した。	
5	「楽典(音楽通論)」および「楽典中級」の教材作成	2015年～現在	全学共通カリキュラムで、定員50名で楽典の授業を行っている。一般大学の学生を対象に、多人数のクラス授業で楽典を教える方法を検討し、それに合った教材を作成している。	
6	「ことばと思想1(音楽をことばで語るー音楽分析入門)」の教材作成	2015年～現在	全学共通カリキュラムで、定員100名で音楽分析の授業を行っている。一般大学の学生を対象に、あまり音楽理論の知識を前提とせず、多人数のクラスでディスカッションをとり入れ実践的に音楽分析を教える方法を検討し、それに合った教材を作成している。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	Schritte international 日本語で学ぶドイツ語文法(主著:矢羽々崇、共著者:柿沼義孝、Kirsten Beisswenger、Angela Lipsky、木村佐千子)	2009年	「基礎ドイツ語I、II」で使う文法教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
1	ドイツ語圏入門コーディネータ	2008年度		
2	外国語学部総合講座コーディネータ	2006年度秋学期および2009年度		
3	総合ドイツ語委員	2004年4月～2008年		
4	基礎ドイツ語コーディネータ	2013年4月～		

ドイツ語学科	教授	木村 佐千子	大学院の授業担当 有
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)			
年月日	活動内容		
1990年頃～現在	日本音楽学会会員		
	同学会常任委員会庶務幹事(1999年4月～2002年3月)		
1997年頃～現在	ドイツ音楽研究学会会員		
1997年頃～現在	新バッハ協会会員		
1998年頃～現在	国際ハインリヒ・シュッツ協会会員(2018年から庶務)		
2005年2月～	NHK青山文化センターをはじめとする市民講座で講師として講演		
その他			
受賞: 2010年 柳田邦男絵本大賞 東京荒川ロータリークラブ賞			